授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	当該科目における実務経験
幼児教育方法論	（ 講義・ 演習・実習 ）	柳田　真理子	保育士

授業の回数	時間数（単位数）	幼稚園教諭専攻科	必修・選択
12 回	24 時間（２単位）	前期	必修

［科目概要・到達目標］

・幼児期における、保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。また、実際の保育の場で必要とされる「環境構成」及び「活動の状況や一人一人の幼児に応じた援助」について理解し習得するとともに、教材研究・活動の展開・保育形態・評価の在り方などを学び、指導案の作成方法を理解する。さえに、情報機器を使用した教材の作成や活用に関する基礎的知識、幼児の情報活用能力（情報モラル含む）の芽生えを培う指導方法などを考察

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

１・保育方法の基本、保育方法の原理について〇保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める。

２．環境を通しての教育とは〇幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について意義と環境構成について学ぶ

３・遊びを通して教育とは〇幼児期にふさわしい生活を捉える視点としての「遊び」について特性、遊びの中の学び、総合的な指導について学ぶ。

４・幼児の主体性の育成について〇幼児期の特徴としての主体性について考える。子どもの主体性と保育者の意図、計画性、役割について考える。

５・学びを育む遊びの内容〇遊びに含まれる「感じる・気付く・試す」という視点で遊びを捉えたときの学びの可能性

６・「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心・自発的な活動を引き出す道具、材料、場や空間構成、雰囲気などの具体的なり理解を深め、カウンセリングマインドを生かした援助についても理解を深め、実践力を習得する

７・様々な保育形態を学ぶ〇一斉保育、自由保育、異年齢保育、プロジェクト・アプローチ、ティーム保育等、様々な保育形態の意義、メリット・デメリット、保育者の留意など学ぶ。

８・保育における指導計画の基本事項〇幼児の心身の発達・保育のねらいや内容、活動の選定、生活の流れにそった保育者の援助や留意点などについての理解を深め、指導案計画の作成に活かす。

９・保育における省察と記録、実践と評価について学ぶ〇保育における省察と効果的な記録の在り方、保育の評価と計画の関わり

１０・今日の電子機器及び教材の急速な進展を考慮に入れ、乳幼児期の情報機器利用状況について学び、個に応じた教育・保育の観点からどのように取り入れることができるかについて、さらに情報モラルの芽生えをどのように育てていくか

１１、幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営などへの情報機器の効果的な活用の仕方について学ぶ

１２・幼児期の教育と小学校教育の接続・連携〇幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小学校教師との連携ついて学ぶ。

１３・家庭との連携を活かした保育〇家庭と園、保護者と保育者などの相互に役割を補完し合うトータルな保育環境づくりや援助

１４・地域との連携を活かした保育〇地域の様々な資源や教育力を活用する保育の在り方について考える

１５・保育のボーダーレス化と多様な保育形態〇統合保育、多文化保育についての意義、方法、配慮事項について幼児を取り巻く社会変化と関連付けて学ぶ。

［使用テキスト］

・「保育の方法・内容を知る　幼児教育の方法」（小田豊　著／北大路出版）

［参考文献］

・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省・日本保育協会）

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。

・平常点(25％)

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。